

---

# 魔法少女リリカルなのはStrikerS ～その拳はユメのために～

ド三流

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers ～その拳はユメのために～

### 【Nコード】

N8658T

### 【作者名】

ド三流

### 【あらすじ】

よろず屋を営む青年『十六夜 達夜』は、ある日誘拐された少女を救い、ちよつとした誤解から警察に追いかけ回される事となってしまう。そして逃走の末にハンドル操作を誤り、高速道路からバイクごと転落……。やがて意識を回復させ、不意に右手に捕まっていた赤い宝石のようなものに視線を向けた瞬間：彼は眩いばかりの光に包まれた……。再び意識を覚ますと、目の前に白衣を纏う紫髪の男と数人の少女が立っていた

## プロローグNo.01

「っだああ!! ちきしょーーーーー!!」

雲一つない晴れ晴れとした青空の下。俺こと『十六夜<sup>いざよひ</sup> 達夜<sup>たつや</sup>』は愛車であるCBR1000RRのアクセスを全開に掻き回しながら高速道を走り抜ける

普通なら速攻で警察に追われるだろう速度なのだが…。いかんせん、今の俺にそんな悠長な事など言っている隙は無い

何故かって？

そんなもん……

『そのバイク！　ただちに停車しろ！』

現在進行形で追われてるからに決まってるんだろ！

別に俺が犯罪を犯した訳ではない。寧ろ称えてくれてもいい程の行いをしたんだ

何をしたかというと、テンプレの如く拉致られそうになった少女を

悪の手から救い、卑劣な者共にちよつとした（？）地獄を見せてやったのさ！

え？ そんな事がお前に出きるのかつて？

ハッハッハ、俺はこう見えてよろず屋：つまり何でも屋を経営してるのさ

え、文字列だから容姿が見れない？ そこは主人公設定w：おっと危ない。トラックにぶつかる所だった

こほん。とにかくよろず屋を営むには心体ともに鍛えるため、多くの格闘技術などの修行を積み重ねてきたという訳だ  
とは言え所詮一人の力。やはり数の暴力には勝てず。現在こうして逃げている訳さ

逃げる必要ないって？ 俺は警察とか苦手なんだよ！

よく警察が目の前に来た瞬間の緊張感：分かるだろう？ 俺はアレが大の苦手なのさ

なら何でよろず屋なんかやってると聞かれたら、報酬が良いからさ！

ダメ人間？ どうとでも言う方がいい！

とにかく、殺り過ぎた（誤字にあらず）のが原因なのか警察側は俺を犯人と勘違いされ、口論の末に逃げ出した

だっていきなり『この殺人鬼め！』って拳銃突きつけられたんだぜ？ 普通逃げるだろ

さて、そろそろ本格的に奴さん達をまくとしますか

そう思い、俺はハンドルを傾けたその瞬間…

ギュリユン！

「っ!？」

視界がブレたのを感じた次の瞬間。俺は意識を手放した

不幸だ……

## ブローグNo.02

「…………ぐっ…………くっ…………かはぁっ…………」

意識が回復する。パラパラと木くずが顔に当たり、やたらと息苦しい

「痛って…………ぐっ!？」

体を起こそうと脚に力を加えた瞬間。凄まじい激痛が襲う

視線を向けると右足があらぬ方向にひん曲がり、赤く染まった骨が突き抜けていた

「くそっ! ぐううアア!!」

体を無理矢理引きずり、近くの柱に背中を預ける

「よく…………生きてたな」

場所はどこかの倉庫なのだろう。微かに差し込む日の光へ目を向ける。転落して出来た大きな穴から見える高速道路との高さ……………実に25m

普通ならミンチ確定な高さだ  
どうやら倉庫内の木箱とバイクがクッションになったお蔭で片足とアバラ数本で済んだようだ

ん? バイク?

「って、あぁ〜〜! 俺のCBR1000RRが〜! つぐほ、げふっげふ」

見るも無惨な姿に変貌したマイバイクに悲鳴を上げ、痛みで咳き込み吐血する

「くふっ…………くそ、マジで洒落になんねえ…………ん?」  
ふと、右手に微かな違和感を覚え、握ったままだった拳を開くと…  
……

「何だ、これ」

赤い宝石のような物を握り締めていた

はて、こんな物いつの間に?

記憶のない代物を見て首を傾げていると、突然宝石から光が放たれた

「うお!?!」

俺は反射的に目を瞑ると同時に、再び意識を手放した

No side

倉庫内全部を包む光が放たれた、やがてその光が止むと。そこに居たはずの青年とその愛車の姿が消えていた

残っている物は押し潰された木箱と夥しい血痕。やがて到着した警察官たちは目を見開き、ただその光景に啞然とするしかなかった

達夜side

あの光に包まれてどの位の時が過ぎただろう。不意に意識を覚醒させ、重く閉じられた瞼を開くと……

「知らない天じ「やあ、お目覚めかい？」……」

「……いや別にね？ この台詞が言えなかったのが悲しい訳じゃないよ？ でもせめて最後まで言いたかった

……というか

「誰……？」

遅すぎる質問だろう。とにかく、俺の前には白衣を着た如何にも科学者の男と、俺を色々な意味で見つめる全身タイツの少女が数名……

いや待て、何故タイツ？

俺の思考回路が可笑しな方向へ屈折した瞬間だった

「私の名はジェイル・スカリエッティだ。そう言う君は何者だい？」

「俺？ 俺ア十六夜 達夜だ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8658t/>

---

魔法少女リリカルなのはStrikerS ～その拳はユメのために～

2011年10月9日04時48分発行